桜歯ニュース
2026. 10. 15
VOL.232
日本大学歯学部ホームページ：https://www.dent.nihon-u.ac.jp/





大学院進学・研究活動への誘い

研究担当　川戸　貴行

学部学生の歯科医師国家試験合格を目指して教壇に立ち、また、教育診療医として付属歯科病院で指導にあたる歯学部の教員は、それぞれの専門領域の研究者でもあります。つまり、研究には、教育・診療に追われながらも取り組みたいと思う魅力がある訳です。歯学に関連する研究テーマは多岐にわたるため、研究の面白味を一般化して表現することは難しいですが、幸い大学には、その魅力を具体的に伝える機会が多々あります。講義の端々に挟まれる研究の歩みや最新の動向の話題、第３学年履修科目「研究の実践」や著名な研究者を講師に招いた特別講義、そして、日々、研究に取り組む教員の姿を通じて、多くの学生と研修医が研究に興味を持ち大学院歯学研究科に進むことを心から願っています。さて、歯学部では、文部科学省科学研究費助成の採択率が前年度に比べ10ポイントあまり上昇しました。これは、主に若手の研究者を対象とした実効性のある申請支援に加え、歯学部では初の試みであった「臨床ニーズマッチング会」の開催など研究の活性化に向けた様々な活動によって得られた好結果です。歯学部が選ばれる学部として社会に貢献する人材を数多く輩出するためにも、教育・臨床と連関させつつ研究の活性化に継続して取り組んでいく必要があります。

（教授　衛生学講座）

ワールド・カフェ

阿久津　舞衣

6月7日に開催されたワールド・カフェに参加しました。テーマは「私たちが豊かに暮らしていくために」という、現代社会を生きる私たちにとって非常に身近かつ考え深いものでした。今回の授業では普段関わることのできない他学部の学生たちとリラックスした雰囲気の中で自由に意見を交わすことができ、私にとって大変新鮮で貴重な体験となりました。

ディスカッションの中で特に印象に残っているのは、学部ごとに異なる視点を持っている点です。例えば、商学部の学生からは経済的な循環やコスト意識といった「金銭的な視点」が提示され、文理学部の学生からはコミュニティのあり方や自然との共生といった「社会的、環境的な側面」に着目した意見が挙げられました。いつも通りの環境では決して気づけなかったアプローチに触れ、とてもおもしろく、知的な刺激を強く受ける時間となりました。



現代社会が抱える複雑な課題を解決するためには、単一の専門知識だけでなく、より多くの視点から物事を多角的に捉えてアプローチしていく力が求められているのだと思います。私が所属する歯学部で学ぶのは、単に医療技術を磨くだけでなく、患者さんの生活背景や心理状態などを汲み取れる多面的な視点と、深い信頼関係を築くため高いコミュニケーション能力を必要とする学問分野です。今回のワールド・カフェを通じて、普段とは違うコミュニティにいる人々とも積極的に関わり、多様な価値観を柔軟に取り入れることの大切さを実感しました。ここで得た他学部との協働の経験と対話のスキルを、今後の大学生活における学びや、将来の目標に向けた自分自身の成長へしっかり活かしていきたいです。



（第1学年）

髙橋　巧海

私は、6月7日に行われたワールド・カフェに参加しました。今回の議題テーマは、「私たちが豊かに暮らしていくために」でした。この議題について、普段の大学生活では関われない参加者同士で自由な意見を出し合いました。

まず、会場に着いたら6人グループに分かれ、自己紹介が始まりました。その後議論が始まり、「ワールド・カフェ」という名の通り、まるでカフェで友人と話をしている感覚で議論が進められていきました。1枚の模造紙の真ん中にテーマを書き、そのテーマに沿った要素をそれぞれが付箋で出したり、模造紙にイラストや矢印を描き足してアイデアを可視化したりしていきました。ここでとても印象的だったのが席替えを経て新たなグループの意見が混ざり合うことにより、思いもよらない発想が沢山出たということです。例えば、一人のちょっとした雑談から新しいアイデアが生まれたり、途中で移動してきたメンバーの言葉によって議論が思わぬ方向に広がったりと、全員で作り上げる対話だからこそ、違う意見が沢山出てきました。テーマに沿って掘り下げる中で、それぞれの専門分野や学部の視点が活かされた意見が出てきました。しかしその中で、「平和」「幸せ」といった普段の生活に関係するものは、誰にとっても共通する「豊かな暮らし」の核として存在していることがわかりました。最後に模造紙に広がった意見を振り返り、見直す、意見交換が行われましたワールド・カフェで得た色々な視点が、これからの6年間を豊にしてくれると思いました。また、今回のテーマだけではなく、他人の意見を聞いて自分の考えがどう変化したかについての話し合いもしました。普段では知ることの出来ない他者の思考やアイデアの広がりについて話をし、交流を深めることができました。



今回のワールド・カフェは、単に意見を交わして交流するだけでなく、自分の視野を広げる貴重な機会となりました。ここで得られた、今これから自分が学んでいく事以外の視点を大学生活だけでなく日常から大切にして自分自身の成長に繋げていきたいと感じました。

（第1学年）

令和８年度 新規採用専任教員における動画等による研修を受講して

新井　聡美

令和８年度新規採用専任教員に対し、動画配信によるオンライン研修が行われました。

私は本学出身ですが、今回教員の立場として研修を経て、本学が単なる歯科医師養成学校ではなく、日本大学が目指す教育や育成する人間像を反映した「日本大学歯学部」ならではの特色あるカリキュラムを有していたのだと考えを改めました。日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」という能力は、歯科医師に限らず、社会を構成する人間に必要不可欠なものです。例えば１年次の「自主創造の基礎」では、グループワーク等を通して大学生・社会人に必要なスキルを学びます。５年生からの臨床実習は、付属歯科病院での患者さんの協力のもと、本学で培った倫理観や協働力をもって知識や技術をより豊かにする場です。６年間を通し、一見歯科医師に直結しないように見える授業も、すべては繋がっていたのだと実感しました。

教員となったことで、微力ながら授業内容やカリキュラムをデザインする側になりましたが、まだまだ未熟で分からないことも多いのが現実です。年々改良されるカリキュラムに対し、自分の学生時代と比較しておや？と思うこともしばしばあります。個性豊かな学生の人間性や学力を見極め、それぞれに合った指導をするのも容易ではありません。教育者として不完全な部分もありますが、研修で改めて学んだ「日本大学マインド」で、学生とともに成長していきたいと思います。

（助教　歯科補綴学第Ⅲ講座）

令和８年度 全学FDワークショップ

学生ヒアリング結果に基づく アウトカム基盤型教育の実質化 ―ロールモデル学生を起点とした授業改善と 教育イノベーション―

日　時：令和8年8月28日(金)13：00~17：25
場　所：日本大学会館2F

林　良憲

令和８年度全学FDワークショップに参加し、「アウトカム基盤型教育の実質化」をテーマに他学部の教員と多角的な議論を行いました。ワークショップを通じ、ロールモデル学生の行動特性を手がかりとして授業内10分程度で実践できる学修活動案を検討し、魅力ある授業の設定の重要性を深く実感しました。さらに「直接評価」の導入や適切な評価方法の確立が、学修成果の可視化および学生のモチベーション向上に不可欠であると再認識いたしました。一方で、世間では詰め込み教育が悪とされがちですが、高い思考力や応用力の形成には徹底的な下地(基礎知識の定着)の構築が必要不可欠であることは広く認知されています。詰め込みなくして応用力の発揮は望めないという原則を常に胸に刻み、今後の教育活動へ還元してまいります。

（准教授　生理学講座）

小柳　裕子

日本大学各学部から31名の教員が参加し、各学部の学生86名を対象としたヒアリング結果を基に、授業内10分程度で実施可能な具体的な学習活動案と評価方法を検討しました。討議を通じ、いずれの学部においても学生のモチベーションの低さが共通した課題であることが分かりました。モチベーション改善のためには講義形式の授業においても、学生がアウトプットしフィードバックを受ける主体的な学習機会を設けることの重要性を再認識しました。基調講演では、2030年度からの新たな大学認証評価制度において、各学部のディプロマ・ポリシーの達成状況や入学後の学生の成長が多面的に評価されること、学部ごとの評価結果が「3つ星」~「1つ星」、「要是正」として分かりやすく可視化されることが共有されました。今後の教育改善と教育の質保証の重要性を強く実感しました。

（准教授　麻酔・全身管理学講座）

歯学部学生FD しゃべり場

日　時：令和8年6月18日17：10 ～ 18：30
場　所：日本大学歯学部本館1階　ラーニングコモンズ

満足　愛

本年6月、FD委員会、学生担当、学務担当の教員および有志の学生間で、歯学部FDしゃべり場が行われました。本企画は「日本大学 学生FD CHAmmiT」に向け、歯学部の良い取り組みや改善点、日本大学に求めることを自由に議論する場です。初参加となった私にとって、修学に意欲的で、歯学部や日本大学全体の教育環境をより良くしようと前向きに発言する学生たちの姿は大変印象的でした。教職員だけでは気付けない視点や多様な声に接し、学生の秘めた無限の可能性を強く実感させられました。「学生だから」と決めつけるのではなく、お互いに意見を交わしながら理想の学びの場を模索していく重要性を再認識すると同時に、主体的に未来を切り拓こうとする学生たちの存在を心強く感じた有意義な時間となりました。今後もこうした対話から、より良い教育環境の実現に繋げていきたいと思います。

（歯科衛生専門学校）

富永　龍

私は今年度初めて歯学部学生FDしゃべり場に参加しました。以前から興味があったのですが、なかなか1歩を踏み出せずにいたところ、友人からの誘いを受けたことがきっかけとなり、参加を決めました。

最も印象深く残ったことは、本学部の特徴や取り組みに関して、学生だけでなく、教員の先生方と共有し、共に議論をすることができるという環境の新鮮さでした。

普段の生活の中ではこのように、学生と先生方が同じ課題について話し合う、という場面は少ないと感じます。私は今回この経験をしたことで、自分の視点を考え直すだけでなく、様々な経験を持った先生方の視点を教えて頂き、自分の視野を広げることができたと感じています。

今回の歯学部学生FDしゃべり場は新たな視点を得る良い機会となりました。ここで得た知見を、今後の学びにも活かして行きたいと思います。

（第4学年）







しゃべり場での様子

歯学体を終えて



歯学体正評議員　木原　亜麻未

今年度の「全日本歯科学生総合体育大会」において、日本大学歯学部は総合３位という結果となりました。昨年度は総合優勝を果たしていただけに、今年度は優勝を逃したことへの悔しさも残ります。しかし、各部活動が日々の学業とクラブ活動を両立しながら練習に励み、大会に向けて努力を重ねてきたことを思うと、今年度も選手一人ひとりが最後まで力を尽くした、非常に意義のある大会であったと感じています。

私は硬式庭球部に所属しており、今年度は後輩たちの応援という形で大会に参加しました。コート上で、真っ黒に日焼けしながら一球一球に懸命に向き合い、最後まで諦めずに試合に挑む後輩たちの姿は、とても頼もしく、そして何よりかっこよく感じました。普段の練習では見ることのできない真剣な表情や、苦しい場面でも仲間を励まし合う姿を間近で見ることができ、改めて硬式庭球部の一員であることを嬉しく思いました。

また、選手だけでなく、応援に駆けつけた部員たちも一丸となって声を出し、コートの外から選手を支えていました。試合の流れが苦しい時には、応援の声が選手の背中を押し、良いプレーが出た時には全員で喜ぶ。その光景から、部活動は選手だけで成り立っているものではなく、応援する仲間や支えてくれる人がいてこそ成り立つものなのだと改めて感じました。

全日本歯科学生総合体育大会は、競技の結果だけでなく、学年の垣根を越えた仲間や多くの人々と喜びや悔しさを分かち合い、互いに支え合うことのできる貴重な機会でもあります。今回、優勝を逃した悔しさを次年度への糧とし、今年度の経験をそれぞれの部活動で今後の活動につなげていくことが大切だと思います。

最後になりましたが、大会に向けてご指導くださった先生方、日頃から活動を支えてくださった保護者の皆さま、そして応援してくださった先輩方に、心より感謝申し上げます。今回の大会で得た経験や仲間との絆を大切にし、来年度は再び総合優勝を目指して、日々の練習や活動に励んでいきたいと思います。　（第５学年）

第58回全日本歯科学生総合体育大会 総合成績

順　位	大　学　名	得　点
優勝	九州歯科大学	144.00点
準優勝	広島大学歯学部	104.75点
3位	**日本大学歯学部**	100.50点
4位	日本歯科大学生命歯学部	97.00点
5位	朝日大学歯学部	89.00点

本学部が上位入賞した部門

夏期部門

1位	柔道部	17点
	日本拳法部	13点
2位	硬式野球部	12点
	卓球部	15点
3位	バレーボール部	12点
	洋弓部	3点
	水泳部	12点

夏期部門の個人種目入賞者

（卓球部）
【優　勝】富永龍（4年）〈男子個人〉
櫻庭康成（1年）〈新人男子〉

（柔道部）
【優　勝】松原虎之助（1年）〈男子－73kg級〉
今村一能（5年）〈男子－83kg級〉
小澤あゆ（2年）〈女子個人〉

（剣道部）
【準優勝】青木知香（6年）〈女子個人〉

（日本拳法部）
【優　勝】川路泰生（4年）〈男子個人〉
鈴木一登（1年）〈男子新人戦〉
【準優勝】松岡虎紀介（5年）〈男子個人〉
福島亜弥（1年）〈女子個人〉

（アーチェリー部）
【優　勝】吉田可歩（1年）〈女子新人戦〉
【3　位】塚田玲於那（1年）〈女子新人戦〉

（陸上競技部）
【優　勝】中村健太郎（5年）〈砲丸投げ，円盤投げ，やり投げ〉
【3　位】齊木洸将（6年）〈400mハードル，走り幅跳び〉

（水泳部）
【優　勝】浅見大和（4年）〈男子200m個人メドレー，100m平泳ぎ〉
【準優勝】塚田海都（4年）〈男子200m自由形，400m自由形〉
村上優香（1年）〈女子200m自由形〉
太田拓海（3年）〈男子200m平泳ぎ〉

優勝　柔道部

主将　今村　一能

柔道部の今村一能と申します。この度、第58回全日本歯科学生総合体育大会柔道競技部門において、団体優勝を果たすことができました。これもひとえに、日頃より支えてくださった皆様のおかげです。

決して平坦な道ではありませんでした。学業や実習と稽古の両立ができず、思うように練習できない日々が続きました。それでも最後は、仲間とともに圧倒的な勝利で終え、現役最後の大会で有終の美を飾ることができました。我が生涯に一片の悔い無し。　（第５学年）



準優勝　硬式野球部

主将　丸山　大智

今年のデンタルでは、前主将を中心にチーム一丸となって戦い決勝まで進むことができました。特に一年生の活躍は大きな力となりチームに勢いを与えてくれました。惜しくも決勝では敗れましたが、ここまで勝ち上がれたのは、前主将をはじめとする先輩方の支えやマネージャーの献身的なサポートがあったからこそです。この経験を新チームに繋ぎ、周囲の支えに感謝し、来年こそ優勝できるよう努力していきます。　（第３学年）



優勝　日本拳法部

主将　川路　泰生

今大会は、私たちが部門主管校として試合運営を担い、選手・マネージャーを含むチーム全員、そしてOBの先輩方と力を合わせて作り上げた大会となりました。団体戦6連覇がかかった大切な試合で見事優勝を果たし、個人戦・新人戦でも優勝を達成しました。女子戦は惜しくも準優勝となりましたが、日頃の練習の成果に加え、会場設営や応援など、それぞれの立場で全員が力を尽くしたからこそ、素晴らしい形で大会を終えることができました。果たせるよう精進して参ります。　（第４学年）



準優勝　卓球部

主将　富永　龍

結果として男子個人戦と男子団体戦、男子新人戦の３部門で優勝を達成しましたが、ライバルの広島大学に僅差で敗れ、総合準優勝という結果となりました。連覇は途切れてしまいましたが、チーム一丸となって戦った今大会は、部員と共に作り上げてきたこのチームの集大成であり、とても良い大会にできたと実感しております。来年度は後輩たちと共に、もう一度頂点に立つべく精進してまいります。今後とも卓球部をよろしくお願い致します。　（第４学年）



3位　バレーボール部

主将　武田　晋

第58回全日本歯科学生総合体育大会において、バレーボール部は第3位という結果を収めることができました。大会では、苦しい場面でもチーム全員で声を掛け合い、最後まで諦めずに戦い抜くことができました。この結果を得られたのは、日々の練習に励んできた選手たちだけでなく、顧問・監督の先生方をはじめ、応援・サポートしてくださった皆様のおかげです。今回の経験を糧に、今後もより良いチームを目指し来年は優勝できるよう頑張りたいです。　(第5学年)



3位　アーチェリー部

主将　加藤　瑞季

今年度のデンタルでは、総合第3位という結果を残すことができました。昨年度の優勝に続くことができなかった悔しさはありますが、部員一人ひとりがこれまでの練習の成果を発揮し、最後まで力を尽くしたことで得られた結果だと思います。今回の大会を通して、チームとしても成長することができ、とても良い経験となりました。この経験を今後の活動にもつなげていきたいと思います。
(第4学年)



3位　水泳部

主将　丸山　彩奈

水泳部は今大会において、男子2位、女子3位、総合3位という成績を収めました。日頃の練習の成果を発揮し、男女ともに総合3位以内を達成することができました。日頃より温かくご指導くださる先生方、そして応援してくださる先輩方に、心より感謝申し上げます。

これからも、仲間とともに切磋琢磨し、次大会では優勝を目指し努力してまいります。　(第4学年)





解団式



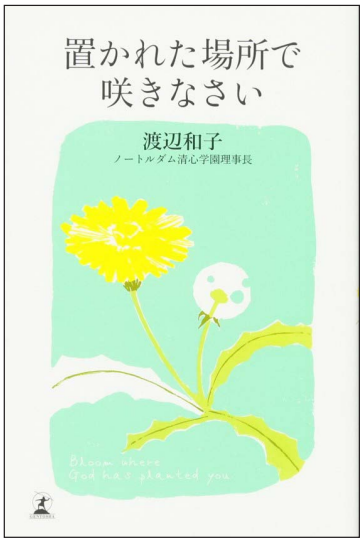
「置かれた場所で咲きなさい」

渡辺 和子著

大内　遥

実に力強いメッセージである。この本は、ノートルダム清心学園前理事長であり、ノートルダム清心女子大学名誉学長でもあった、シスター渡辺和子氏の著書である。当時９歳であった 1936 年２月 26 日の所謂２・26 事件の際、目の前で父を殺害される、という過酷な運命を背負った方でもある。今回、道しるべとなる一冊を紹介するにあたり、この本を思い出し、紹介することにした。

「置かれたところこそが、今の貴方の場所である。」歯科医師を目指して入学したものの、自信を失いかけていた私の心に、ストレートに突き刺さった。筆者も、思いがけない境遇に置かれたことで、不平不満を抱き、自信を失っていた時期もあったという。「例えどんな環境に在っても、他人のせい、不平不満に逃げ込んだりせず、先ずは自らが咲く努力を怠ってはならない。どうしても咲けないときには、根を下へ下へと伸ばせばよい。そうすることで、次に咲く花は、より大きく、より美しいものになる。そこでの生き方は、自らが選択するものであることを忘れてはならない。」私は、筆者からのこの力強いエールに深く感銘を受け、弱気になっていた自分自身を、奮い立たせるきっかけとなった。



長い人生の中で、失敗や挫折を経験することはよくある。しかしながら、そのような逆境を乗り越え、真っ直ぐ前を、上を向いて立ち上がるときにこそ、人は大きく成長し、自らの未来（明日）を信じ、新たな可能性を広げることが出来るのではないか。「置かれた場所で咲きなさい。」筆者が、迷える我々に贈るこの言葉は、気高く力強い、明日への福音なのである。　（口腔外科Ⅰ 専修医　大内遥）

令和８年度進学相談会

企画・広報委員会副委員長　小泉　寛恭

令和８年度の日本大学歯学部進学相談会は、６月14日、７月26日、８月23日の３回にわたり開催され、受験生ならびに保護者の皆様にご来場いただきました。

参加者数は、６月14日が104名、７月26日が120名、８月23日が104名で、３回合わせて328名となりました。また、第４回進学相談会を10月31日に桜歯祭と共催で開催する予定です。

進学相談会では、本学部の概要や教育内容、入学者選抜に関する説明をはじめ、模擬授業、校内見学、個別相談、在校生との交流などを実施しました。

参加者には、実際にキャンパスを訪れ、教育・研究施設を見学するとともに、教職員や在校生と直接交流することを通じて、日本大学歯学部での学びや学生生活について理解を深めていただきました。

特に、在校生との交流では、日々の授業や実習、学生生活などについて受験生からさまざまな質問が寄せられました。在校生自身の言葉で大学生活を紹介することで、受験生が入学後の学生生活をより具体的に思い描く機会になったものと思われます。

また、模擬授業や校内見学を通じて、本学部の教育環境や歯科医学を学ぶ魅力についても広く紹介することができました。

10月31日には、桜歯祭との共催で第４回進学相談会を予定しています。

学生が主体となって開催する桜歯祭と同時に実施することで、通常の進学相談会とは異なる、活気あるキャンパスの雰囲気や学生の姿に触れていただける機会になることが期待されます。

少子化に伴い大学を取り巻く環境が大きく変化する中、本学部の特色や歯科医学を学ぶ魅力を受験生や保護者に直接伝える機会は、ますます重要となっています。

今後も進学相談会をはじめとするさまざまな機会を通じて、日本大学歯学部の教育、研究、学生生活の魅力を積極的に発信し、本学部への理解を深めていただけるよう努めてまいります。

最後になりましたが、進学相談会の開催・運営に御協力いただきました教職員ならびに学生の皆様に、厚く御礼申し上げます。　（教授　歯科理工学講座）

随想

PCR法が導いた学びの人生

武市　収



今から40年近く前、私が大学院生時代に行った研究テーマは「根尖性歯周炎における炎症性サイトカイン遺伝子発現の関与」でした。研究に用いた試料は、根管から採取した滲出液と根尖歯槽骨から外科的に摘出した病変組織です。当時、このような少量のサンプルに対してはタンパク質の検索（免疫染色法、Western blotting法、ELISA法など）しか行われておりませんでした。

病変部のサイトカイン遺伝子発現を検索するには、genomic DNAをターゲットとしては意味がありません。刺激が加わることで発現する、メッセンジャーRNAの検索が重要です。2本鎖DNAの増幅法として既にPCR（polymerase chain reaction）法が行われていましたが、1本鎖RNAに対するPCR法は行われておりません。そこで、私の研究はRNAをPCR法で増幅する手法の確立からスタートしました。今でこそ、RNAを用いたPCR法は当たり前でしょう。しかし、1本鎖RNAを2本鎖にする手法がわかりません。あれこれ試したものの、なかなかうまくいかず、その1年後にはRNAに対するPCR法がNature誌とScience誌に掲載されてしまいました。先を越されてしまったことに、非常にがっかりしたものです。

当時、PCR法は歯科関係者の中ではあまり知られておらず、研究のテーマを聞かれた際、「PCR法を用いた研究です」と答えると、Plaque Control Record（歯の清掃状態を示す指数）ですか？と言われるなど、笑える経験もしました。しかし、つらかったこの研究をやり切ったことで、大学院を修了した年の夏には渡米し、ハーバード大学の研究所で、ポスドクとして4年間研究することができました。日本では無給の医局員でありながら、アメリカで給料をいただき、研究することができたことは、私の礎となっております。

誰しも先が見えないことや、将来に不安を抱えることがあります。しかし、何らかのアクションを起こすことで切り拓（開）かれる道もあるでしょう。自分ができることは何かを考え、これからも精進してまいります。　（教授　歯科保存学第Ⅱ講座）

釣りがつないでくれた縁

田村　宗明



2022年初夏、当時3年生たちが「釣り同好会を立ち上げたいので顧問を引き受けてほしい」と相談に来た。なかなか顧問が見つからないという。「深く関われないかもしれない」と迷いもあったが、自分自身の釣りの思い出がよみがえり、その申し出を引き受けることにした。

私と釣りとの付き合いは幼い頃から続いている。実家が海の近くにあり、港の防波堤で小アジや小ダイを釣り、小学生になると早朝から砂浜でシロギス、メゴチを狙った。中学生の頃からはボートでの流し釣り（竿を使わないトローリング）や渓流釣りにも夢中になり、釣りはいつも身近な存在だった。

大学時代には縁がなかったが、大学院修了後のカナダ・バンクーバー留学中には研究の合間にフレーザー川の支流でコーホーサーモン（ギンザケ）釣りを体験した。川に入るとドックサーモン（シロザケ）が足にぶつかってきて自然の豊かさに驚かされた。日本から遊びに来た友人とバラード海峡でチヌークサーモン（キングサーモン）を狙ったことも忘れられない。小型（70 cm以下）ばかりですべてリリース、釣果には恵まれなかったが針に掛かったサーモンを狙うゼニガタアザラシが海面から頭だけを出していた光景は今でも鮮明に覚えている。

帰国後は釣りに出かける機会が減ったが、同級生にはブルーマーリン（クロカジキ）を釣りにハワイに行く者や、GT（ロウニンアジ）を狙って海外に遠征する者もいた。釣りには、齢を重ねても人を惹きつける不思議な魅力があるのだろう。

その魅力を改めて感じさせてくれたのが釣り部である。釣り同好会は2026年4月に釣り部へ昇格し部員も年々増えている。活動では経験豊富な学生が初心者に釣り方を教え、釣った魚を皆で調理して味わう。そこには、魚を釣る喜びだけでなく、人と人がつながる豊かな時間が流れている。釣り部には兼部の学生が多い。学年や所属を超えた新たなつながりを築き、学生たちにはかけがえのない時間を過ごしつつ、充実した学生生活を送ってほしいと思う。

（准教授　感染症免疫学講座）



オピニオン

○高校生の頃から個人でフードバンクへの寄付を続けています。生活困窮者の中には、乳幼児のいる家庭や、非常食にまで手が回らないという現状があります。自治体を介して必要な方へ直接手渡される仕組みだからこそ、本当に支援を必要としているところへ届きます。学生でも関わることができるこの活動が、持続可能な支援の仕組みを育むきっかけになると信じています。　**（1年　遠藤　咲希）**

○幸せとは何だろう？高収入であることだろうか？高学歴であることだろうか？答えは否かもしれない。自分が幸せだと思えばそれが幸せだ。僕の好きな考え方にある本からの引用がある。実は選択肢が広い人間に限って物事が見えず“幸せ”に走っているようにみえる、と。自分の心の行き着く先の人生に死は微笑むのかもしれない。　**（1年　吉川　寮）**

○2年次前期は科目や試験が多く大変な毎日でしたが、解剖学、生理学、口腔組織学、感染症免疫学といった全身や口腔に関わる基礎医学について深く学びました。解剖学の神経脈管や組織学の組織像同定に苦戦した際は、先生への積極的な質問や、友人と問題を出し合い悩みを共有することで辛い試験を乗り越えることができました。これらの科目はCBTや国家試験、そして将来の歯科医師としての臨床にも直結する重要分野です。前期で一通り履修した内容を忘れないよう、この夏休みを活用して徹底的に復習し、確実な定着を図りたいです。今後も自分が歯科医師として働く姿をイメージし、高いモチベーションを持って日々の勉強に励んでいきたいと思います。

（2年　臼井　信太郎）

「私はこの夏を水泳に捧げてみようと思う」と言うと重く感じるかもしれない。しかしそれに迫るほど、今季の私は水泳に打ち込んでいたと言える。部活動の練習メニューをただ漫然とこなすだけでなく、自分で考えながら自主練習にも取り組み、その日々を続ける事でたしかに技術が得られていると実感した。夏の大会で、十分な結果を残せたとは言えない。それでも、この経験は次につながる意味あるものである。悔しさも含めて、これからどのように努力していくべきかを考えるきっかけであるからだ。この経験を生かして勉学にも打ち込み、その先で自分なりの結果を出すことができたなら、学生として大きな満足を得られる筈だ。結果は大切である。しかし、結果に向かって試行錯誤した時間もまた次の自分をつくる大切なものである。　**（3年　古峪　巧暉）**

○歯学部での学生生活は、授業や実習、試験勉強に追われる忙しい毎日です。しかし、専門知識を身につけるだけでなく、学生という限られた時間だからこそ、学外で様々な経験を積み、視野を広げることも大切だと感じています。私はこれまで、海外を訪れる機会を大切にしてきました。現地での経験を通して、自分にとって当たり前だった考え方を見つめ直し、多様な価値観や物事の捉え方に触れることができました。また、海外の医療や歯科分野にも関心を持つようになり、将来は海外で開催される学会や研修にも積極的に参加したいと考えています。患者さん一人ひとりに寄り添う医療者となるためには、幅広い視野や柔軟な考え方が欠かせません。これからも様々な経験を通して学びを深め、自身の成長につなげていきたいと思います。　**（4年　島田　鼓子）**

○今年から5年に上がり、座学や実習が中心だった学校生活が院内実習中心の生活になりました。今まで教科書や資料でしか見てこなかった器具や症例といったものが実際に見学でき、機会があれば直接触れることができる場合もあります。またマネキンを相手にしていた実習とは違い実際の患者さんと接することで緊張感や勝手が大きく違い、新鮮な日々となっています。また5年は統合試験もあり、院内と勉強の両立が大事になってきます。5年のうちにどれだけ国家試験の勉強を進められるかが合格率に関わってくると聞いているので、連日の院内実習で非常に疲れていますが、日頃の勉強を欠かさずに頑張っていこうと思います。　**（5年　狩谷　眞和）**

○入学した頃は、6年間はとても長いものだと思っていました。しかし今振り返ると、あっという間だったように感じます。講義や実習、臨床実習を通して多くのことを学び、仲間と励まし合いながら過ごした日々は、かけがえのない思い出です。残された学生生活はわずかですが、一日一日を大切にしながら国家試験に向けて努力を続け、春には歯科医師として新たなスタートを切れるよう頑張りたいと思います。　**（6年　藤井　朱里）**

熊本でのボランティア活動

貝原　正紀

私は令和８年熊本地震で被災した熊本県益城町で災害ボランティアとして活動しました。益城町は建物の倒壊こそ少ない地域ですが、屋内での家具倒壊が多く、発災直後でマンパワーが不足する中、住民の方だけでは対応しきれない厳しい状況が続いています。

私はとあるお宅の家財の片付けを他のボランティアメンバーと丸一日かけて行い、微力ながら支援の一端を担うことができたと感じています。

私は何度か災害ボランティアに参加してきましたが、毎回「人が集まることの力」に驚かされます。被災された方々だけでは乗り越えることが難しい困難も、多くの人が協力し合うことで解決へ向かうからです。私は助け合いの精神を大切にし、これからも日本社会に貢献し、還元のできる活動を続けていきたいです。（第１学年）

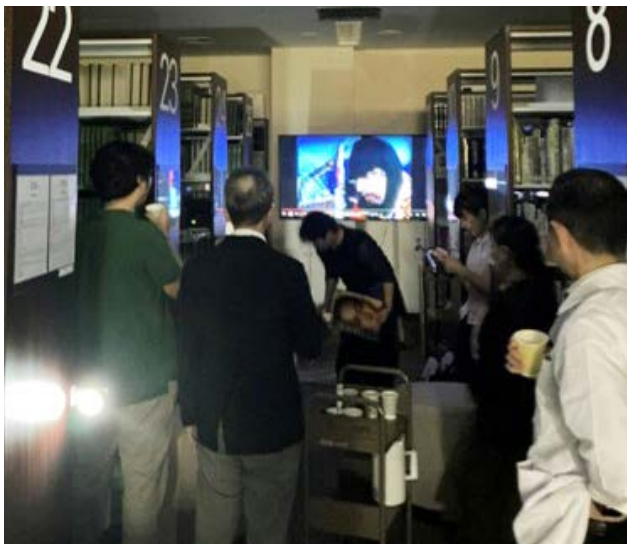


図書館書架で レコード鑑賞会を開催

図書館事務課

７月８日に、図書館ワークショップ「レコード鑑賞会＠歯学部図書館」を開催しました。学生選書委員の土肥さん（学部４年）がファシリテーターとなり、各自が持参するレコードを鑑賞し、学部内者同士の交流をはかるという企画です。当日は、レコードを持参した人、鑑賞しに来た人、そろりと立ち寄った人など、10数名の学生、教職員が参加しました。書架エリアの照明を落とし、２時間にわたりさまざまなジャンルの音楽を楽しみました。書架エリアは音の反響を抑え音響的な豊かさを得られることも発見でした。レコードプレイヤーと当日使用したレコードの一部は、引き続き図書館カウンター前に設置し、ヘッドフォンで鑑賞ができるようにしていますので、ぜひ聴きに来てください。今こそアナログのサウンドを味わいましょう。レコードの寄贈を大募集中です。実家で眠っているレコードがあれば、図書館で再利用します。





ほけん室から

インフルエンザ等の対策はお早めに

昼間は汗ばむ日もありますが、朝夕は過ごしやすい季節になりました。

昨年度は歯学部でもインフルエンザが猛威をふるいました。感染症が大流行する前にしっかりと対策をしましょう。予防のために大切なポイントが7つあります。

①予防接種を受けるようにする。
②外出後は必ずうがいと手洗いをする。
③栄養のある食事と、水分をしっかり摂る。
④室内の温度・湿度に気をつけ、こまめに換気する。
⑤室温は20℃前後、湿度は60%位を保つ。
⑥人込みを避ける。
⑦たっぷりの睡眠をとる。

インフルエンザに罹患すると、高熱や咳、鼻水、のどの痛み、筋肉痛といったつらい全身症状を伴います。学校や仕事を休まなければならなくなるだけでなく、家族や友人にうつしてしまう可能性もあります。

自分自身と周囲の人を守るためにも、みんなで予防を心がけましょう。

令和8年度 第1回 公開講座案内



NewsPlus α

☆第58回全日本歯科学生総合体育大会解団式が開催されました

9月10日（木）17時30分から本館大講堂（創設百周年記念講堂）において、第58回全日本歯科学生総合体育大会解団式が開催されました。大会結果・写真等は、本号P5からP7ならびに背表紙を御覧ください。

☆自衛消防訓練が行われました

10月2日（金）に本館7階屋上にて、学生及び教職員を対象とした自衛消防訓練が行われました。次号にて報告いたします。

☆父母懇談会が実施されました

10月10日（土）に父母懇談会が開催されました。次号にて報告いたします。

☆桜歯祭が開催されます

10月30日（金）・31日（土）に桜歯祭が開催されます。次号にて特集しますので、桜歯祭の写真を桜歯ニュースに掲載しませんか。

庶務課（de.general@nihon-u.ac.jp）まで件名を「桜歯祭写真提供」と記載して送付してください。みなさまからの写真をお待ちしています！

学　事

歯学部行事予定

10月　4日（日）　日本大学創立記念日
　　10日（土）　父母懇談会
　　17日（土）　外国人留学生選抜、編入学試験、転部試験
　　24日（土）　解剖体追悼法要
　　30日（金）・31日（土）　桜歯祭
11月14日（土）・15日（日）　リーダーズキャンプ
　　21日（土）　学校推薦型選抜（公募制）
　　学校推薦型選抜（指定校制）
　　学校推薦型選抜（付属高等学校等）
　　校友枠選抜
12月23日（水）　卒業者発表

科学研究費助成事業交付決定者

（令和8年9月1日付、課題番号順）

☆挑戦的研究（萌芽）
小林　真之
☆研究活動スタート支援
上原　　怜

お知らせ

寄付金の受け入れ

(8.31現在)

＝研究助成金＝

50万円　サンメディカル株式会社　歯科保存学第Ⅰ講座へ
(代表取締役社長　中島　祥行 殿)　7.15

30万円　サンメディカル株式会社　歯科保存学第Ⅱ講座へ
(代表取締役社長　中島　祥行 殿)　7.15

50万円　サンメディカル株式会社　歯科理工学講座へ
(代表取締役社長　中島　祥行 殿)　7.24

50万円　サンメディカル株式会社　歯科補綴学第Ⅲ講座へ
(代表取締役社長　中島　祥行 殿)　7.15

50万円　クラレノリタケデンタル株式会社　歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長　山口　里志 殿)　8.31

50万円　クラレノリタケデンタル株式会社　歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長　山口　里志 殿)　8.31

編集後記

今夏もW杯が盛り上がり、寝不足の日々となりました。選手の活躍とともに印象に残ったのは、過去にW杯を経験した日本代表のレジェンドたちの活躍です。コーチとして後進を指導したり、独特な解説でサッカーの面白さを伝え、日本中が一丸となって応援する雰囲気を作ったりと、サッカー界全体で選手を支える姿がありました。大舞台で力を発揮するためには、選手一人ひとりの努力だけでなく、周囲の支えや、そこに至るまでの準備、そしてチームや国としての結束が重要なのだと改めて感じました。これは大学教育にも通じるものだと思います。本学部は、学生一人ひとりの成長を支え、安心して挑戦できる「場」となれているでしょうか。教職員が互いに支え合い、一丸となって学生の成長を後押しできる「チーム」になれているでしょうか。学生と教職員がともに学び、支え合い、目標に向かって成長していける、そんな日本大学歯学部であることを願います。　(K.T.)

第232号　日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13　TEL　03（3219）8001








表彰
日本大学歯学部水泳部


日本大学歯学部
バドミントン部

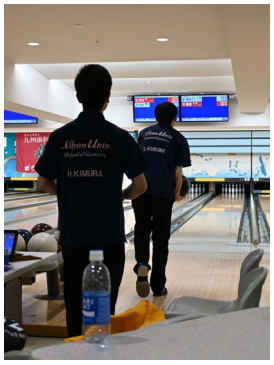













第58回全日本歯科学生総合体育大会卓球部
日本大学歯学部








日本大学歯学部
日本大学歯学部


ソフトテニス部